

# 第84回環境審議会でのご意見と市の考え方

## 議題1 第二次町田市環境マスタープランについて

No	委員名 (区分)	ご意見	市の考え方
1	藤倉委員 (学識経験者)	全体に、最終年度である2020と2021はコロナ禍なので、それについての分野横断的な総括はないのか。資料05をみても、項目毎の記載があるだけで、全体的な記載が見当たらない。資料03も同様。	委員ご指摘のとおり、第84回の審議会資料ではコロナ禍の影響について、2021年度の取組ごとに記載をしています。  2020年度及び2021年度の市の普及啓発事業等において、新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたので、環境白書2022に分野横断的な統括を表現します。
2	藤倉委員 (学識経験者)	資料02、p.4 CO2排出量/人の2021の値はいつ報告されるのか。	2021年度の一人当たりのCO2排出量は、2024年度に公表する予定です。  CO2の排出量/人については、東京都から電力等の数値提供を受けて算出しています。そのため、確定値(2021年度)の算出は、2023年度末となる予定です。
3	徳武委員 (市民)	未達の目標については、目標設定が適切だったか検証が必要だと思います。	第二次町田市環境マスタープランの数値の設定については、当時の環境審議会において審議いただいたうえで決定しました。  しかし、第3次町田市環境マスタープラン策定の中で、第二次町田市環境マスタープランの目標設定の適切さについては検証を行い、取組と目標の関連性の低さ等が課題であると認識しています。  そこで、第3次町田市環境マスタープランの成果指標については、実際の取組がより反映され適切な指標となるよう、環境審議会でご審議いただき設定をしています。  取組が直接反映される成果指標の例 「家庭のエネルギー消費量」・・・古い家電を省エネ家電へ買い替えることや、節電をすることにより、家庭のエネルギー消費量を削減することができます。 「市内乗用車の登録台数に占めるEV、FCVの割合」・・・走行時の環境負荷が低いEV、FCVを購入することで反映されます。
4	徳武委員 (市民)	市民の努力に求める活動については、大人への啓発活動は難しい面もあるので小中学校での広報・教育活動が重要と考えています。第二次の期間の学校でどのような取り組みをされたのか。情報提供をお願いいたします。	市立小学校では以下の取組などを実施しました。  ①次世代エネルギーである水素エネルギーを学んでもらう燃料電池教室 ②3Rの普及啓発としてごみと環境の出前講座 ③生物多様性を学んでもらうためビオトープの出前授業 ④市立小学校全42校の小学生に身近である市内の環境(生きものやごみなど)を記載した環境副読本の配布  中学生を対象に、以下の取組も実施しました。 ①体験型(実験)の水素エネルギーについて学べる環境学習イベント
5	徳武委員 (市民)	市民や市外からの訪問者が安心して自転車を利用できる環境整備を始めたのは大変よいことだと思います。予算等の問題もあるかと思いますが、進捗状況がやや遅いと感じました。	自転車利用環境の整備(自転車走行空間の整備)については、第二次町田市環境マスタープランで設定した目標(3.03km)を上回る(3.26km)整備を行うことができました。  2022年度からは、自転車を活用する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、新たに、分野別個別計画である「町田市自転車活用推進計画」もスタートしています。 さらに、今後、「町田市自転車活用推進計画」に基づく「(仮称)町田市自転車ネットワーク計画」を策定し、計画的に自転車通行空間の整備を進めていきたいと考えています。

6	徳武委員 (市民)	取り組みにおいて、市内の企業、高等学校、大学等がどのように関わっているか、情報提供をお願いいたします。	<p>過去の環境白書に市内の事業者、大学等との連携・協働等の取組について掲載していますが、いくつかご紹介いたします。</p> <p>事業者との関わりについては、以下のとおりです。</p> <p>①市内事業者が環境に配慮した活動を行うことを宣言していただき、その活動の広がりを応援し、市がPRする制度(まちだエコ宣言)を設けています。</p> <p>②取組意欲の喚起を図るため等を目的に、一般廃棄物の減量や適正排出を積極的に行い、かつ組織的に工夫を凝らし取り組んでいただいた町田市内の事業所を表彰し(まちだ3R賞)、町田市ホームページ等で周知を行っています。</p> <p>③2021年3月に開催したまちだサステナビリティフェスをはじめとした各種イベント等でも事業者と連携・協働して普及啓発を行っています。</p> <p>市内の大学との関わりについては、以下のとおりです。</p> <p>①「第3次町田市環境マスタープラン」策定の際に、アンケートやワークショップ(2回実施)に協力いただいたり、ゼミなどで町田市へ施策提言をしていただきました。</p> <p>②駅周辺の清掃のため、ポイ捨てされたごみの収集に参加いただきました。</p> <p>③自然環境に軸足を置いたジェネラリストを育てることを目的とした東京都のECO-TOPプログラムを活用し、町田市役所でインターンを経験していただくなど、様々な連携・協力をしています。</p>
7	大塩委員 (市民)	第二次町田市環境マスタープランの振り返りについて、数値目標、見る限り多くが目標未達 個別施策のレポートはないのか？	<p>第二次町田市環境マスタープランの振り返りについては、参考資料3「第3次町田市環境マスタープラン」の8～9ページにて基本目標ごとの振り返りを行っています。</p> <p>また、2021年度の施策の進捗につきましては、参考資料1「第二次町田市環境マスタープラン2021年度進捗報告書」に個別の施策、取組の振り返りの記載があります。</p> <p>なお、町田市では、毎年、町田市環境基本条例の第16条に基づき、環境の状況及び環境施策に関する報告書(環境白書)を作成し、公表しています。</p> <p>参考:町田市環境基本条例第16条 市長は、毎年、環境の状況及び環境施策に関する報告書を作成し、これを公表するものとする。</p>
8	本目委員 (事業者)	第二次町田市環境マスタープランの目標に対し、達成できなかったものも多くありましたが、古くから力を入れているゴミの削減などは、着実に成果を上げていることから長期的な視点で、地道な活動を継続していくことが未来の目標達成に重要であると思います。	委員ご指摘のとおり、各種環境施策は効果が出るまでに時間を要するものもあるため、継続的に普及啓発等を行っていきたく考えています。
9	本目委員 (事業者)	将来の町田市のため、市と市民が協働でおこなう活動、特に次世代を担う子供さんをターゲットとした人財育成、情報発信は重要と感じます。従来イベント等もありますが、ICTを活用した双方向の情報共有(オンライン、SNS等)も有効だと思いますので、今後も継続した取り組みによる成果を期待しております。	引き続き、次世代を担う子どもの環境教育を進めていきます。なお、2022年度からは、紙資源の削減及びICTの活用として、環境副読本を電子配布に切り替えるなどの取組も行っていきます。

10	堂前委員 (学識経験者)	<p>基本目標1について、①は足踏み状態であったが、これから成果が出てくることを期待したい。②は少しずつではあるが上昇してくるだろう。③については、高齢化社会では新しい公共交通システムの整備など大きな交通システムの変化を伴わなくては難しいように思われる。</p> <p>基本目標2について、②で水辺とのふれあいを楽しむ市民が増えたことは市民や行政の努力の賜物と思われる。③は「生きものに関心」というのが抽象的だったのかも知れない。</p> <p>基本目標3について、新施設の稼働によって好転することを期待している。</p> <p>基本目標4について、②はpH以外の指標が目標を達成できていることは素晴らしいこと。新たな達成目標にはなりにくいだろうが、引き続き、水質の維持に務めてほしい。③の目標を達成したのは目覚ましいが、なぜ可能だったのかが知りたい。</p> <p>基本目標5について、新型コロナのために、市民イベントが中止になってしまったのが惜まれる。今後の行政や市民によるイベントの活性化を進めてほしい。こうした活動の活性化が①の指標を高めることにつながるだろう。</p>	<p>第二次町田市環境マスタープランでは、実際の取組と目標の関連度が低いため、目標が達成できなかった達成目標もありましたが、第3次町田市環境マスタープランでは、取組を行うことで効果を実感してもらえる指標を設定していますので、それぞれの成果指標を達成できるよう、環境施策を推進していきます。</p> <p>また、ご質問いただきました基本目標4の達成目標「住居地の周辺環境について満足している市民の割合(2011年度、62.7%)の5ポイント増の67.7%を目指します」(資料1「第二次町田市環境マスタープランの振り返り」6ページ)が目標達成した明確な理由については、把握できておりません。</p> <p>2017年度の後半に米軍機が岩国基地へ移転し、不快である原因として過去多かった「航空機の騒音」が減少したことも、満足度向上に繋がったと考えられます。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の拡大により、遠出を避ける人が増えた中で、自然も豊かで遠出せずともリフレッシュできる環境に満足する方も増えたのではと想像できる一方、家にいる時間が増えたためか、不快であると答えた人の理由として「近隣住民の迷惑な行動」が上位に挙がってきています。</p>
----	-----------------	---	--

### 議題1 町田生きもの共生プランについて

No	委員名 (区分)	ご意見	市の考え方
11	徳武委員 (市民)	<p>アプリを使った生きものへの投稿は大変よい取り組みだと思いました。この活動も小中学校での取り組みが重要だと思います。どのような取り組みがされたのか、情報提供をお願いいたします。</p>	<p>アプリを活用した生きもの調査では、市民の方から投稿いただいた写真を使用して、「まちだのいきものクイズ(動画)」、「みんなでつくる！まちだ生きものアルバム」を作成し、町田市ホームページやYouTubeの町田市公式チャンネルに掲載しました。それらを活用して、小中学生向けに普及啓発を行いました。</p> <p>具体的には、「まちだのいきものクイズ」は小中学生も含めた多くの方が閲覧できるようにYouTubeの町田市公式動画チャンネルで公開したほか、子どもセンターへ上映用データを配布しました。「みんなでつくる！まちだ生きものアルバム」は、市立小中学校に製本版を配布しました。これらの取組を通して、小中学生に身近な市内の生きものを紹介し、興味をもっていただくきっかけをつくりました。</p> <p>今後は、学校等の意見も取り入れながら、若年層への参加の呼びかけや、調査で蓄積したデータを小中学校での取組としての活用に対する普及啓発の方法を検討をしていきます。</p>
12	徳武委員 (市民)	<p>里山保護の取り組みは大変よいと思います。市内の樹木や竹林の資源としての活用を進める取り組みがもっと進めるべきと考えています。</p>	<p>「町田市里山環境活用保全計画」を2022年に策定しました。いただいたご意見につきましては、計画の中で掲げた4つの基本方針(「里山の環境を整える」、「里山の魅力を伝える」、「里山を体感する」、「里山ではじめる」)の取組の中で、進めていきます。</p> <p>手入れがされなくなったことにより、植生が単調になった雑木林に再び手を入れるため、伐採木等の利用方法などを検討します。</p> <p>また、次世代を担う子どもやその保護者を対象に、市内の樹木や竹などの資源を使った工作、遊びや専門家の解説を通じて、里山を身近に感じることができる普及啓発のイベントを実施しました。引き続き、このような場を提供していきます。</p>
13	徳武委員 (市民)	<p>取り組みにおいて、市内の企業、高等学校、大学等がどのように関わっているか、情報提供をお願いいたします。(再掲)</p>	<p>事業者について ①市ホームページで事業者向けコンテンツを公開し、環境省作成の「生物多様性と民間参画」、東京都作成の「生態系に配慮した緑化推進」のリンクを掲載して生物多様性の保全の啓発を図りました。</p> <p>高等学校について ①生物多様性保全の普及啓発や取組について、協働を行うためのヒアリングや検討を始めました。</p> <p>大学について ①「第3次町田市環境マスタープラン」策定の際にアンケートやワークショップ等で協力いただいたり、ゼミなどで町田市へ施策提言をしていただきました。 ②東京都のECO-TOPプログラムを活用し、町田市役所でインターンを経験していただくなど、様々な連携・協力を行っています。</p>

14	藤倉委員 (学識経験者)	全体に、最終年度である2020と2021はコロナ禍なので、それについての分野横断的な総括はないのか。資料05をみても、項目毎の記載があるだけで、全体的な記載が見当たらない。資料03も同様。(再掲)	委員ご指摘のとおり、第84回の審議会資料ではコロナ禍の影響について、2021年度の取組ごとに記載しております。  「町田生きもの共生プラン」においても、2020年度及び2021年度の市の普及啓発事業等において、新型コロナウイルス感染症の影響を分野横断的に受けた旨を環境白書2022に記載します。
15	大塩委員 (市民)	生物多様性の保全についての意識啓もう活動は現在どのようにすすんでいるのか？ 21年度に開催された市民団体との交流会、マップ配布などはとても良いことと思う 生き物探しキャンペーンも良い案だと思うがあまり知られていないことが残念に思う 積極的な発信をして広く知ってもらうことが課題だと思う	生物多様性の保全についての普及啓発は、これまで以下の取組等を行ってきました。  ①市ホームページ、SNS、市内5カ所の公園(鶴間公園等)に設置している生きもの情報コーナーなどを活用した情報発信  2022年度は、以下の取組を実施しました。  ①生物多様性の保全に関する特集を広報まちだ8月1日号の1、2面に掲載  ②シティープロモーション動画として町田市公式YouTubeチャンネルで「#4 生きものとの共生を目指して」を公開  いただいたご意見を参考に、今後も市ホームページ、SNS、生きもの情報コーナーなどを活用しながら、積極的に情報発信を進めていきます。
16	根本委員 (学識経験者)	資料1の「第二次町田市環境マスタープランの振り返り」について、これまでの成果が数値だけでなくグラフで示されていてわかりやすいです。赤い点で示されている目標値に達していない項目がいくつもありますが、資料を見た人にこの赤い点を目指したいという感覚を呼びおこしています。視覚に訴えることは重要だと思いました。資料2の成果は数値ですが、グラフを追加することはできませんか。	いただいたご意見は、生物多様性地域戦略(旧 町田生きもの共生プラン)が包含されている「第3次環境マスタープラン」の進捗報告をする際に検討させていただきます。
17	堂前委員 (学識経験者)	① 市内5カ所の「生きもの情報コーナー」とあるが、川や公園などに簡単な生きもの紹介プレートを設置するなど、市民と連携して簡単な案内を広く薄く設置するのだけでも足もとの生きものへの関心が高まるのではないのでしょうか。例えば能ヶ谷一丁目の鶴見川大正橋付近に設置した生きもの紹介プレートは、市民からの希望に応じて数を増やしており、市民の生きものへの関心を刺激していると思われます。  ② 2021年度はしない活動団体の交流が出来て良かったと思う。今後も市民を応援する行政の姿勢を示してほしい。  ③ 雑木林整備などで活動団体が資源を活用できる余地を増やしてほしい。	①いただいたご意見を参考に、今後、設置に向けた研究を進めていきます。  ②引き続き、町田生きもの共生フォーラムだけでなく、市民協働などの催しの機会を活用し、市内活動団体の活動紹介や、意見交換、交流などの場を設けます。また、今後も様々な形で、市内活動団体の活動を周知していきます。  ③里山の環境を活用する団体や企業等の活動が継続し、持続可能な里山環境の保全につながるように必要に応じた支援に取組めます。

議題2 第3次町田市環境マスタープランについて

No	委員名 (区分)	ご意見	市の考え方
18	藤倉委員 (学識経験者)	第3次町田市環境マスタープランがスタートして4ヶ月経過した。今年度何に着手し、その進捗状況はどうか。特に、重点プロジェクトについて進捗があれば報告いただきたい。また、今後の取組について、具体的な事業の計画(確定していないものでもよい、事務局での検討段階でも可)があればお示しいただきたい。	<p>2022年4月からスタートした「第3次町田市環境マスタープラン」の進捗につきまして、重点プロジェクトを中心にいくつかご報告します。 ※それぞれの取組等についての詳細は、市ホームページ等で最新情報の確認をお願いします。</p> <p>重点プロジェクト1「再生可能エネルギー等の利用拡大」 2022年の7月～8月にかけて、ご家庭からのCO2排出量を削減することで環境負荷を低減いただくことを目的に、市内のご家庭でエネファーム(化学反応で電気と熱を作ることのできる家庭用燃料電池)を新設する際の助成金制度(奨励金交付)の運用を開始しました。7月1日から8月12日に行った募集に対して、112件の応募がありました。</p> <p>また、2022年4月から、町田市バイオエネルギーセンターの廃棄物発電により発電した電気を鶴見川クリーンセンターに約60万kWh/月供給し、電力の地産地消を行っています。なお、これにより、市の再生可能エネルギー導入量の増加やCO2排出量が削減され、地域における持続可能な循環型社会の構築に寄与しています。</p> <p>重点プロジェクト2「次世代自動車等の積極的な導入と多面的な活用」 電気自動車の普及拡大を目指して、2022年6月から、町田市バイオエネルギーセンターでの電気自動車の急速充電器の利用を開始しました。6月は140回、7月は413回の利用がありました。</p> <p>重点プロジェクト4「地産地消の推進」 町田産農作物まち☆ベジの周知のため、2022年7月から8月にかけて、バスやタクシーで動画放映等のPRを行いました。 また、アプリから町田産農作物等を注文して、市内の受け取りボックス(市立総合体育館ほか)から受け取れるサービスを実施し、地産地消の推進を行っています。 より多くの方に利用いただけるよう、受け取りボックスを順次拡大しています。</p> <p>重点プロジェクト5「フードドライブによる食品ロスの削減」 食品ロスを削減のため、2022年度に「(仮称)食品ロス削減推進計画」の骨子を策定する予定です。</p>
19	藤倉委員 (学識経験者)	「町田市ゼロカーボンシティ宣言」は第3次町田市環境マスタープランとどうかかわるのか、また宣言を行うことでどのような効果が見込めるのかを市民に対して説明すべき。	<p>2050年までの温室効果ガス排出実質ゼロを目指して、市では、2022年1月にゼロカーボンシティ宣言を行いました。</p> <p>宣言内容は以下のとおりです。</p> <p>「2021年に開催されたCOP26では、世界平均気温の上昇を産業革命以前から1.5℃以内に抑えるという目標について、世界的な喫緊課題として取り組んでいくことが再確認されました。我が国においても、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとするカーボンニュートラルを目指し、2030年度における温室効果ガスの削減目標を、2013年度比で46%減としています。</p> <p>町田市としても、脱炭素社会の実現に向け、町田市バイオエネルギーセンターにおける廃棄物バイオマス発電や、市有施設等での太陽光発電等による再生可能エネルギーの利用拡大とその地産地消、また、電気自動車(EV)、燃料電池自動車(FCV)の積極的な導入と非常用電源等による多面的な活用等を推進し、温室効果ガスの削減を進めていきます。</p> <p>また、脱炭素を様々な環境課題解決のための柱として捉え、市民・事業者・市それぞれが共に手を取り合い、市内の温室効果ガス排出量を2030年までに99万8千t-co2に削減し(2013年度/148万9千t-co2)、2050年までには温室効果ガスの排出実質ゼロを目指す、環境先進都市「ゼロカーボンシティまちだ」に向けて取り組むことを宣言いたします。」</p> <p>第3次町田市環境マスタープラン(2021～2031年度)では、2050年の温室効果ガス排出実質ゼロに向けた土台づくりを行う期間として、特に重点プロジェクト1「再生可能エネルギー等の利用拡大」や重点プロジェクト2「次世代自動車等の積極的な導入と多面的な活用」の取組を実施していきます。</p> <p>委員にご指摘いただいたとおり、市民に対する第3次町田市環境マスタープランとの関連を含めた周知等については、9月に実施予定のゼロカーボンシティ宣言に関するアンケートの中でも行っていきたいと考えています。</p>

20	徳武委員 (市民)	再生可能エネルギーの利用拡大、次世代自動車の積極的導入には、市民を支援する補助金が欠かせないと考えています。今年度から東京都が新築・既存住宅への補助金を充実させてきました。町田市としても独自の補助金導入が必要と考えています。また、市内の小中学校など公的機関は太陽光や風力等の発電設備を必置としてエネルギーを自給できるような取り組みも必要だと考えています。	第3次町田市環境マスタープランの重点プロジェクトに基づき、今年度は、次世代エネルギーの普及のため、市内のご家庭でエネファームを新設した方に対する助成金制度の運用を開始しました。再生可能エネルギー及び次世代自動車に関する補助制度については、今後の検討にあたり参考とさせていただきます。  市内の小中学校など、公的機関での太陽光発電・風力発電等の設置に向けては、公共施設の省エネ化や再生可能エネルギーの導入に関する全庁的な指針となるガイドラインを2022年度に策定し、再生可能エネルギーのさらなる導入促進を行う予定です。
21	徳武委員 (市民)	地産地消は大切だと思います。市内農家を支援する仕組みを充実させることとアグリハウスのような直販施設の充実が欠かせないと思います。川崎市のセレスモスの成功に学ぶことが多いと感じています。アプリを使った直販の仕組みはとてよいため、市民への広報が大切だと思います。家庭菜園への支援も必要と感じています。	地産地消の広報については、町田産農作物まち☆ベジの周知のため、2022年7月から8月にかけて、バスやタクシーで動画放映等のPRを行いました。  そのほかいただいたご意見は、今後の取組の参考とさせていただきます。
22	徳武委員 (市民)	里山の保護は取り組みが進んでいると思いますが、市内には放置樹木、特に竹林が多いので、NPO等と連携した取り組みはよいと思います。他の自治体でも竹林等の資源化を始めたようなので、先行地の視察も必要だと思います。またカーボンゼロを意識して、緑地公園の整備も必要だと感じました。	里山環境の保全にあたっては、「町田市里山環境活用保全計画」に基づき、地域住民や企業・団体など多様な主体の連携・協働による、里山環境の活用を推進していきます。  以下のとおり、具体的な取組を実施しました。  ①現在放置竹林の課題解決に向けて、大学や企業、自治体等で構成される研究会に参加して情報収集 ②研究会で報告のあった取組事例を参考に、小野路町において地域住民や企業・団体などの協働による「竹灯籠づくり」のワークショップの開催 ③宮崎県の企業の協力を得ながら「町田産のメンマづくり」 ④里山などの環境について学び、市内の竹を使って水鉄砲や竹とんぼをつくる子ども向けイベントの開催  また、林野庁の助成金を活用したNPO法人などによる竹林の整備活動が市内4か所で行われています。
23	徳武委員 (市民)	マスタープランの内容の広報が大切だと思います。SNSやアプリの活用はよい取り組みだと思います。もっと取り組みを拡大していくためには、やはり学校教育が欠かせないと思います。市内小中学校、高等学校の理科。社会の先生、総合的学習。総合的探究の時間を担当している先生方への説明会が必要だと思います。その後、各学校に応じた授業作りを共同で実施する仕組みを作ることが必要だと考えています。	小学校については、授業で環境学習として取り扱っていただけるよう、環境副読本(環境マスタープランの子ども向け概要版)を配布しています。2021年度については、全市立小学校42校中41校で使用いただき、町田市の環境(生きものやごみ)について記載してあるので内容が身近に感じられて良い教材となったという声もいただきました。  中学校、高等学校への第3次町田市環境マスタープラン等の環境学習への仕組みについては、今後、検討をしていきます。
24	山口委員 (学識経験者)	議題1の資料を確認したところ、達成できていない項目が散見されたので、第3次町田市環境マスタープランの実施に際しては、着実な成果が得られるよう、市役所がリードし、市民を巻き込み、進めていってもらえればと思います。	第3次町田市環境マスタープランでは、望ましい環境像を実現するため、市民・事業者・市の3者で計画を推進することとしておりますので、まずは市が率先して各種取組を行うとともに、市民・事業者に自分ごととして捉えて取組を進めていってもらえるよう、周知・広報等も行っていきます。
25	利光委員 (事業者)	重点プロジェクト2の「次世代自動車等の積極的な導入と多面的な活用」については、自家用車両のEV、FCV化に注力されるように見受けられます。路線バスをはじめとした、公共交通の利用促進と車両のEV、FCV化にご助力頂くことが、脱炭素や渋滞の緩和にもつながり理想形だと思っています。	第3次町田市環境マスタープランでは、市だけでなく、市民、事業者の各主体がそれぞれ自分ごととして取組を推進していただくことで望ましい環境像を実現できる体系となっています。 重点プロジェクト2「次世代自動車等の積極的な導入と多面的な活用」においても、市民・事業者・市の各主体がそれぞれの役割(次世代自動車の導入等)を実施していくことで実現できるものとなっています。  2022年6月には、ご家庭での電気自動車の利用拡大の一助となるよう、町田市バイオエネルギーセンターでの急速充電器の利用を開始しました。現在、事業者の方に対しては、国や都の補助制度を紹介しておりますが、公共交通に対する今後の支援については、取組を検討する際の参考にさせていただきます。

26	利光委員 (事業者)	環境省の「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金」への応募は検討しないのでしょうか。	将来的な脱炭素社会の実現に向けて、当該の交付金のほか、すでに行っている国や都との情報交換を進める中で、各種施策の実施・検討を行っています。
27	大塩委員 (市民)	異常気象により地球の平均気温は上がり続けている(温暖化の進行) 第3次町田市環境マスタープランの数値目標について 短期的な見直しが必要ではないか 目標達成の見通しは? 数値目標が出されているが、妥当性、根拠がよくわからない。 うまくいくことを前提に設定されていないか? 予測を上回ることも考えているか?	前提としまして、第3次町田市環境マスタープランは町田市環境審議会条例に基づき、環境審議会での調査・審議を経て策定されています。そのため、数値目標等も環境審議会での審議を経て設定されています。  第3次町田市環境マスタープランの目標値等の見直しにつきましては、現段階では、3年が経過した時点を目途に行う進捗点検の結果をもとに、必要に応じて行うことを想定しています。しかしながら、社会情勢等の変化に臨機応変に対応するため、前倒して見直すことも検討していきたいと考えています。  成果指標の目標値については、それぞれの指標に合った算出方法を用いています。 たとえば「市内の温室効果ガス排出量」は、第3次町田市環境マスタープランの112ページに記載のとおり、人口減少等を加味した将来推計と、市が取組を行った場合の温室効果ガスの削減可能性を算出し、足し上げて設定しています。  そのほか、市民アンケートで測る指標については、10ポイント増を掲げ、「SNS等のフォロワー数」であれば、野心的目標として1万フォロワーを掲げるなどしています。
28	大塩委員 (市民)	子供向けの環境副読本、わかりやすくよい。作って終わりではなく、市民に広がる活動が必要 例えば 施策「様々なエコ市民の育成と協働のネットワーク構築を進めます」の一環として市民向けの第3次町田市環境マスタープランの学習会を開いてみてはどうか? また、興味、関心を持つ市民、子供たちの相談、学習会が開催されるのであればその案内など対応する窓口を設けてはどうか?	子ども向けの環境副読本については、小学校4年生を対象に配布し、授業の中で取り上げていただくよう、各学校にお願いしています。  第3次町田市環境マスタープランの学習会については、今後の取組の参考とさせていただきます。
29	大塩委員 (市民)	環境省の「脱炭素先行地域」に応募する!! 重要プロジェクト1「再生可能エネルギー等の利用拡大」で目指すところの「地域が一体となったエネルギーの有効利用や防災機能の強化が実現したスマートシティの構築」を実現するため、国の支援を受けながら2024年までに町田の地域特性に応じたスマートシティのモデル構築の筋道をつける	現在、重点プロジェクト1「再生可能エネルギー等の利用拡大」の実現に向けた取組の検討を進めております。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
30	大塩委員 (市民)	ゼロカーボンシティ宣言を宣言で終わらせないための具体策が必要。 計画策定と同時に市民が主体的に話し合い、一人一人の意識を高める地域で学び対話する機会を設けるなど市民意識を高めることも重要	2025年温室効果ガス排出実質ゼロのゼロカーボンシティを目指して、2022年度は、すでいくつかの取組を実施しました。 取組のひとつとして、2022年4月から、町田市バイオエネルギーセンターの廃棄物発電により発電した電気を鶴見川クリーンセンターに供給し、電力の地産地消を開始しました。 また、公共施設の省エネ化や再生可能エネルギーの導入に関する全庁的な指針となるガイドラインを2022年度に策定し、公共施設への再生可能エネルギーの導入などを推進していきたいと考えています。  市民意識を高めることについても重要であると考えていますので、今後の取組として、市民と共有ができる取組の検討を進めているところです。
31	本目委員 (事業者)	第3次町田市環境マスタープランは、「まちだ未来づくりビジョン2040」とも相まって、基本目標を達成するための重点プロジェクトを中心にさらに一歩踏み込んだ内容だと思えます。市や市民だけでなく事業者も取り組むべき役割が明確であり、より具体的な活動と成果が期待されます。当社も重点プロジェクト1, 2については、専門性を活かしたご協力ができればと存じます。	第3次町田市環境マスタープランの推進に向けて、市民・事業者と連携・協働を進めていきたいと考えています。

32	根本委員 (学識経験者)	資料3「第3次町田市環境マスタープラン」のスライド18「町田市ゼロカーボンシティ宣言」について、この宣言とそれまでの5つの重点プロジェクトとの関係、さらにはこの宣言の実現のために町田市が今後予定している主要施策などについて追加の情報があるとよいのではないかと思います。	重点プロジェクトのみならず、地球温暖化対策に関する取組については、ゼロカーボンシティ実現に向けた土台づくりとして行っています。  ゼロカーボンシティ実現のために実施する施策の記載については、より具体的になりましたら、今後の審議会においても、報告をさせていただきたいと考えています。
33	廣田委員 (市民)	「町田市ゼロカーボンシティ宣言」を宣言で終わらせないためにも、具体的な取組をどうするかが重要だと思います。同じくゼロカーボンシティ宣言をした長野県上田市では、ゼロカーボン計画策定と同時進行で、地域みんなで学び対話する場「上田リバース会議」といった市民会議で議論する取組を始めようとしています。 また武蔵野市でも、脱炭素社会に向けて市民が主体的に話し合う「気候市民会議」を開き、計5回の議論をもとに市民活動プランとしてまとめ、来春にも市内外に発信するそうです。 こうした事例を参考に、町田市でも市民が自分ごととして考える場を設け、提案された具体的なアクションを立法や予算化につなげてみてはどうでしょうか。	ゼロカーボンシティ宣言を行ったことに伴い、現在、町田市としましては、2022年4月から、町田市バイオエネルギーセンターの廃棄物発電により発電した電気を鶴見川クリーンセンターに供給した電力の地産地消や、小学校に出向くなど燃料電池自動車であるMIRAIによる水素エネルギーの普及等を実施し、子どもたちに好評を得ています。  ゼロカーボンシティの実現に向けて、市民、事業者と一緒に取組を進めていくことは、重要であると考えています。 これまで、市民意見交換会やシンポジウムの開催等を実施してきましたが、今後の具体的な手法については、引き続き検討を行い、取組を進めていきます。
34	堂前委員 (学識経験者)	重点プロジェクト3では、谷戸や山林の保全活動において、山林や河川の管理活動者が活用できる余地を増やすことを期待しています。以前のように「やってはいけない」ことだらけでは管理活動の持続が難しくなっていくと思います。	「里山環境の活用と保全」につきましては、「第3次町田市環境マスタープラン」だけでなく、分野別個別計画である「町田市里山環境活用保全計画」を策定し、これらの計画に基づいて事業を推進していきます。 事業の推進にあたっては、地域住民や企業・団体など多様な主体が連携・協働し、里山環境の活用を図ることで、時代に即した循環サイクルを構築し、持続可能な保全につなげていきます。

### その他について

No	委員名 (区分)	ご意見	市の考え方
35	大塩委員 (市民)	審議の時間が足りない 臨時開催として開催回数を増やしてはどうか？	前提としまして、「町田市環境審議会条例」により、審議会は、市長の諮問に応じて調査審議し、答申するものとなっています。 現在のところ、諮問内容はありますが、審議会委員との情報提供と助言を求めていく状況です。  臨時開催については、今後の動向をみでの判断としたいと考えています。
36	大塩委員 (市民)	「環境教育の推進及びカーボンニュートラル達成に向けた学校施設のZEB 化のさらなる推進を求める意見書」が提出可決されたことより環境教育の充実について参考になる事例を集めて町田市でも取り組んでみたらどうか？ 学校施設の断熱改修など	公共施設の省エネ化や再生可能エネルギーの導入にあたっては、2022年度に全庁的な指針となるガイドラインを策定し、推進していきたいと考えています。
37	大塩委員 (市民)	既存の鉄道網を利用したカーボンフリー小規模多機能物流の提案	いただいたご提案については、まずは研究をさせていただきます。



38	高橋委員 (市民)	先日バイオエネルギーセンターを見学させていただきありがとうございます。家庭でのゴミ問題について、子ども世代へ教育は大変重要なことと思います。同時に、家庭での習慣も影響すると思いますので、是非、子育て世代に向けたゴミ問題や環境問題への関心、理解を深めていただけるアプローチのより一層の取組を期待致します。	子ども及び子育て世代の方にもゴミ問題や環境問題への関心、理解を深めていただけるよう、子ども向けの環境学習(水素エネルギーの出前講座、ゴミと環境の出前講座、ピオトープ出前講座等)も引き続き実施していきたいと考えています。
39	廣田委員 (市民)	子ども向けの環境教育を継続していただけると幸いです。 ① 幼児向けに楽しみながら気付いたらゴミについて関心を持っているコンテンツの実施。 ② 小学生向けには環境教育の一貫での『ゴミと環境の出前講座』は積極的に行って欲しいです。	子ども向けの環境教育については、引き続き実施していきたいと考えています。  現在、幼い頃からごみの問題に少しでも関心をもっていただくため、保育園・幼稚園向けに、紙芝居やゲーム、歌等を通じて楽しみながら学べる「ゴミと環境の出前講座」を実施しています。  また、小学生向けのごみと環境の出前講座については、毎年小学校に実施希望を募っており、希望があった小学校に対して講座を実施しています。  引き続き、ゴミと環境の出前講座については、毎年の各学校への周知、募集を行っていきます。
40	廣田委員 (市民)	今回の審議会は書面開催となりましたが、委員にも事後連絡ではなく事前に相談してほしいと思います。また書面開催への変更理由がコロナ感染の拡大であれば、リアル開催ほどではありませんが、顔の見える双方向の議論が可能なオンライン開催の方が良いのではと思いました。	まず、今回の書面での開催にあたりましては、委員のみなさま全員に、事前にご意見をうかがうご連絡を差し上げました。 そのうえで、開催方法について、ご意見等はなかったこと、報告案件のみであったことなどを踏まえ、書面での開催といたしました。  「町田市附属機関等の設置及び運営に関する要綱」において、会議は、対面かオンライン会議で行うことを基本とするとしていたうえで、災害その他のやむを得ない理由により、参集またはオンライン会議での開催が困難な場合は、条例等に抵触しない限り、書面による調査審議を行うことができるものとしております。  第84回町田市環境審議会におきましては、過去に類を見ない新型コロナウイルス感染症の急拡大により書面開催となりましたが、今後の開催につきましては、社会情勢にもよりますが、双方向の議論がしやすい対面やオンライン開催を行うよう努めていきます。